

## がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第57号

平成28年夏発行

●  
発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

## 副院長就任のあいさつ



愛知県がんセンター  
中央病院 副院長  
亀島 里美

本年4月から副院長兼看護部長を務めさせていただくことになりました、亀島里美です。歴史ある当院で責任ある立場を拝命し、身の引き締まる思いであると同時に、貴重な経験の機会をいただけることに感謝しております。

現在、愛知県内には26のがん診療拠点病院ができ、標準的ながん治療がどこでも受けられるようになりました。最近のがんの治療も進化しており、当院では患者さんの身体への負担が最小限にできるロボット手術の導入など、高度ながん医療の提供をめざし取り組んでいます。今や、「2人に1人ががんに罹患する」と言われており、大変身近な問題ではありますが、その治療は日々進化し、多くの情報があふれています。患者さんやご家族が、そこから必要な情報を取捨選択することは容易ではありません。当院は、初診の方や入院時に苦痛のスクリーニングを実施し、少しでも辛さを軽くできるよう緩和ケアの充実をめざし、チームでサポートしています。

また、医療を取り巻く環境も大きく変化し「病院完結型」から「地域完結型」へ「治す医療」から「治し支える医療」を目指す動きが加速しております。当院も、がんの治療を安心して受けていただけるように相談体制の充実や、退院後にも住み慣れた場所での生活ができるよう地域の皆様との絆もさらに強めていきたいと考えております。

当院の看護師が患者さんやご家族にとって、一番身近で相談できる存在になるよう、職員ひとりひとりを大切に育てながら、日々研鑽を重ねていきたいと思っております。そして、多くの方から当院を選んでよかったと思っただけのような努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 研究所見学ツアーを開催しました！(2016.05.14)

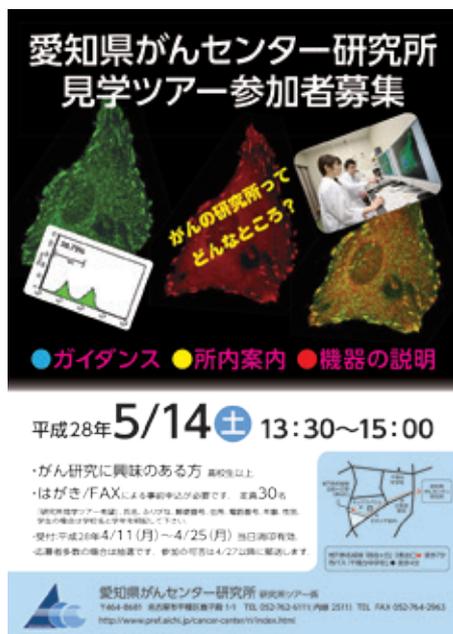


写真1 ポスター&チラシ

### ～経緯～

これまでの「研究所見学ツアー」は、毎年9月の第1土曜日の午後ががんセンターで行われます市民公開講座の関連行事として、公開講座の参加者を対象に講座の開始前に行っていましたが、研究所としての広報効果をさらに上げるため、今年度は見学ツアーの単独開催にして、がん研究に関心のある対象者を想定した開催案内を出すことにしました。

### ～事前案内と事前申し込み～

まず、対象者を生命科学研究に関心のある県内の高校生と大学生、愛知県がんセンター研究所自体に興味を持っている名古屋市民と想定しました。広報委員のアイデアを反映したプロのデザイナーによるポスターとチラシを作成し(写真1)、県内の全ての高校、大学の理系の学部、公立図書館、市・区役所など、研究所のPRを兼ねて関係機関に発送しました。また、千種区のミニコミ誌や朝日新聞、中日新聞にも開催案内が掲載されました。この様な事前案内の甲斐あってか、50名もの参加申し込みがありました。抽選の結果、高校生、大学生を含む30名が選ばれました。

### ～当日の様子～

5月14日土曜日の午後1時30分から、研究所北館3階セミナー室でツアーはスタートしました。最初に関戸副所長が研究所を代表して挨拶し、次いで私(田中)が見学ツアーの主旨と研究所の概要について説明を行いました。次に、参加者は(赤)(青)(緑)の3チームに分かれ、研究所本館1階に移動しました。ここでは、実験機器の説明と質疑応答を、実体顕微鏡については分子病態学部の佐久間主任研究員が、共焦点顕微鏡については腫瘍医化学部の笠原主任研究員が(写真2)、また、フローサイトメーターについては、腫瘍免疫学部の太田研究員が、それぞれ担当しました。1つの機器につき、約20分間かけて行い、これを3チームがローテーションして見学しました。

最後に再び全員を北館3階セミナー室に誘導し、感染腫瘍学部の疋田研究員が3つの実験機器について、がんの基礎研究全体から見た役割について、まとめの説明と質疑応答を行い、約1時間45分の見学ツアーを終了しました。

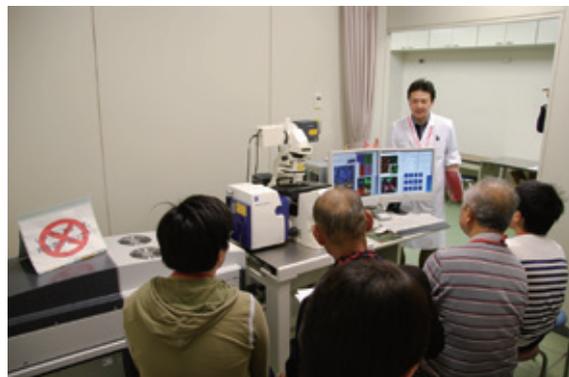


写真2 共焦点顕微鏡の説明の様子

### ～終わりに～

参加者のアンケートの結果、ほとんどは、「大変興味深かった。」「面白かった。」という感想を書いておられました。また、当日は中日新聞の取材を受けました(6月14日掲載)。定数を大きく上回る参加希望者もあったことから、研究所を県民の皆様知ってもらう広報活動として、まずまずの成果が上がったのではないかと思います。





# 平成28年度 愛知県がんセンター公開講座

## ～最新のがん情報をわかりやすくお伝えしています～

## ◇開催日及びテーマ

回	開催日時	申込	テーマ（講師）
1	平成28年5月21日（土） （愛知芸術文化センター）	14:00～16:00 （開場13:30） <b>終了</b> 不要	<b>講演「乳がんをもっと知ろう」</b> ①増える乳がん、予防と早期発見（疫学・予防部 室長：伊藤秀美） ②選択肢の増えた乳がん手術（乳腺科部 医長：澤木正孝） ③ここまで進んだ薬物治療（乳腺科部 医長：服部正也） ④あなたの生活を守ります（看護部 乳がん看護認定看護師：高木礼子）
2	平成28年7月16日（土） （愛知芸術文化センター）	14:00～16:00 （開場13:30） <b>終了</b> 不要	<b>講演「最新の免疫療法」</b> ①がん免疫療法の進歩（腫瘍免疫学部 部長：葛島清隆） ②悪性黒色腫の治療—粘膜悪性黒色腫を中心に—（薬物療法部 医長：門脇重憲） ③肺がんの新規免疫療法（呼吸器内科部 部長：樋田豊明）
3	平成28年8月3日（水） （がんセンター研究所）	9:00～17:00 <b>終了</b> 事前申込 定員14名	<b>高校生向け 基礎実験体験講座</b> 「細胞ががん化する様子を観察しよう～がん細胞の形はこんなにも変化する！～」
4	<b>がん征圧月間</b> <b>【がん征圧講演会】</b> 平成28年9月3日（土） （がんセンター中央病院 国際医学交流センター）	14:00～16:30 （開場13:20） 不要	<b>講演「がんと共に生きる2016—研究から実践まで—」</b> ①がん悪液質の克服を目指した研究（分子病態学部 部長：青木雅博） ②生活習慣と遺伝子からがん予防を考える（遺伝子医療研究部 部長：松尾恵太郎） ③診断期からの緩和ケア（看護部 緩和ケア認定看護師：藤下礼） ④相談支援センターにようこそ （地域医療連携・相談支援センター 認定がん専門相談員：山田佳代子）
5	平成28年11月19日（土） （がんセンター中央病院 国際医学交流センター）	14:00～16:00 （開場13:20） 不要	<b>講演「大腸がんの治療の進歩」</b> ①内視鏡による治療の進歩（内視鏡部 医長：田中努） ②無再発を目指した大腸がん手術（消化器外科部 医長：小森康司） ③大腸がん抗がん剤治療の進歩（仮）（薬物療法部 医長：谷口浩也）
6	平成29年2月25日（土） （がんセンター中央病院 国際医学交流センター）	14:00～16:00 （開場13:20） 不要	<b>講演「低侵襲外科治療について」</b> ①泌尿器科領域におけるロボット手術を中心とした低侵襲手術の現状（泌尿器科部 部長：曾我倫久人） ②婦人科における低侵襲治療について（仮）（婦人科部 部長：水野美香） ③消化器外科（食道外科）における低侵襲治療について（仮）（消化器外科部 医長：安部哲也）

## ◇場所

- 第1・2回 愛知芸術文化センター 12階 アートスペースA（定員200名）  
第3回 愛知県がんセンター研究所 北館3階セミナー室（定員14名）  
第4・5・6回 愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センターメインホール（定員350名）

◇受講料及び受講対象 無 料 ・ どなたでも受講できます。

◇申込み 不 要

## ◇その他

- 当日は駐車場が混雑しますので、公共交通機関をご利用ください。
- この内容は、愛知県がんセンターホームページでもご覧になれます。

## 【問い合わせ先】

愛知県がんセンター 運用部経営戦略室 公開講座係  
〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号  
\*TEL（代表）052-762-6111（内線2511） \*FAX 052-764-2963  
\*ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

## 生活習慣と遺伝子の情報を利用した 頭頸部・食道がんリスク予測の研究

～研究所 遺伝子医療研究部～



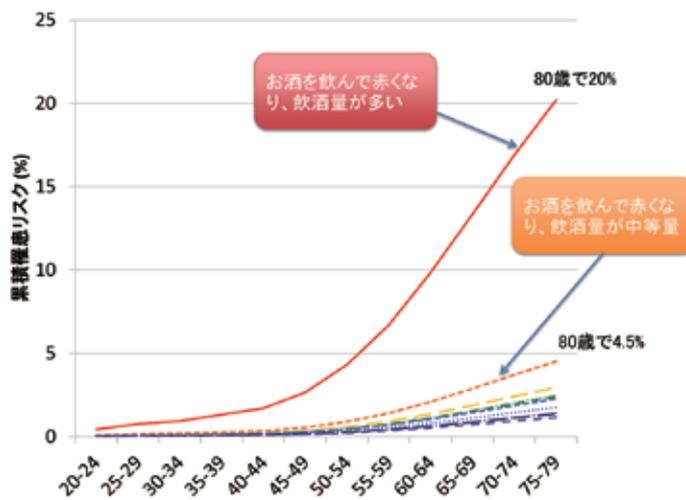
遺伝子医療研究部長

松尾恵太郎

頭頸部がん・食道がんはお酒によりリスクが高くなる疾患です。お酒の中のアルコールの代謝産物であるアセトアルデヒドがこれらのがんの発がんに強く影響を与えている事が知られています。

アセトアルデヒドは、アセトアルデヒド脱水素酵素ALDH2という酵素で無害な酢酸に変換して解毒しますが、この酵素には、遺伝子レベルで酵素活性の差が出来る遺伝子多型が存在していることが知られています。日本人の5割の方は、お酒を飲むと赤くなります。赤くなる人は、お酒を飲んだ際に発がん物質であるアセトアルデヒドが体の中に溜まりやすく、こういう体質の方がお酒を飲むと、そうでない方よりも、頭頸部・食道がんリスクが高いことをこれまで報告してきました。

図は、ある年齢までに何%の方が、頭頸部・食道がんに罹るかを示したものです。お酒を飲んで赤くなり、かつお酒の量が多い（週に5日以上かつ一回当たり日本酒換算で2合以上）の方は、80歳までに20%、つまり5人に一人の確率でこれらのがんにかかります。もし一回あたりの飲酒量を減らしてやれば（週に5日以上かつ一回当たり日本酒換算で2合未満）、リスクを4.5%まで減らすことが出来ます。



自身の体質を知り、生活習慣を変える、オーダーメイド予防を実現するべくがんセンター内の関連部門と連携を取りながら研究を続けています。

### 研究員の紹介

研究所 ～分子腫瘍学部～

分子腫瘍学部では、悪性中皮腫および肺癌といった呼吸器系のがんを対象に日々研究を行っています。がんは遺伝子異常の積み重ねにより発症することがだんだんとわかってきました。そこで当研究部では、がん細胞の大規模遺伝子解析等を実施し、細胞のがん化に関わる遺伝子の同定に取り組んでいます。また、がん化・進展・転移にいたるメカニズムを分子レベルで解明し、新たな診断法や抗がん剤の開発を目指しています。

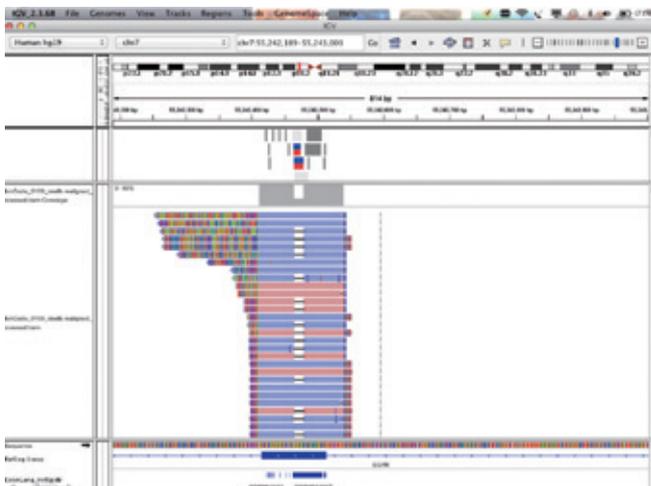


前列左から：池田遥奈（研究補助員）、向井智美（研究員）、関戸好孝（部長）、村上（渡並）優子（主任研究員）、西澤美和子（研究技師）  
後列左から：長谷川郁恵（研究技師）、中濱由実（秘書）、山岸良多（リサーチレジデント）、長田啓隆（室長）、佐藤龍洋（主任研究員）、田中広祐（連携大学院生）、松下明弘（リサーチレジデント）、加藤毅人（リサーチレジデント）

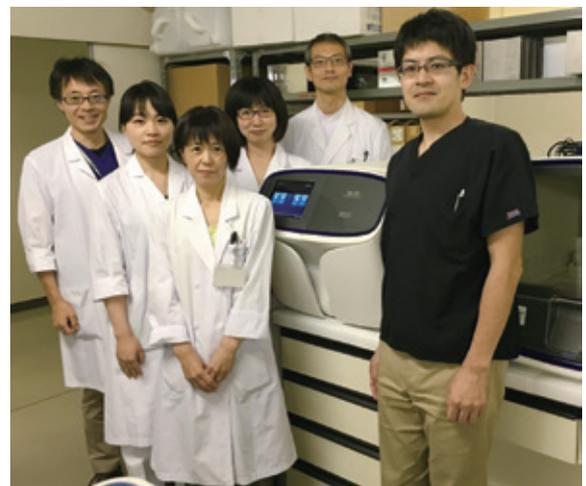
## 高速大量遺伝子変異解析可能な次世代シーケンサーの導入 中央病院 ～遺伝子病理診断部～

がんの治療は、発病のメカニズムが遺伝子レベルで解明されてきており、その異常に基づいた抗がん剤の選択が実際の医療として行われています。これまではそのような分子標的薬は数が少なかったため、単一遺伝子変異を解析することで十分でしたが、現在は複数の薬剤が登場し、多数の遺伝子変異を調べる必要があります。これまでは個別化医療と言われてきましたが、より正確ながん遺伝子異常の情報に基づいた精密医療の時代になったともいえます。実際、がんセンターでは大腸癌では74の遺伝子異常を、肺癌では125の遺伝子異常を調べています。そのような現状に即して、高速かつ大量の遺伝子変異を解析できる次世代シーケンサーを導入しました。この機器により、より精密な遺伝子異常がより迅速に見出され、実際の治療薬の選択に生かされることになります。

(遺伝子病理診断部長 谷田部 恭)



次世代シーケンサー解析例。この解析では多くのアレルに遺伝子欠損が検出されている。これにより分子標的薬の効果を示す腫瘍とわかる。



次世代シーケンサーとその解析チーム  
中央は日本で3台目となるionS5機種  
最大で160検体測定可能

### 診療医の紹介

中央病院 ～婦人科部～

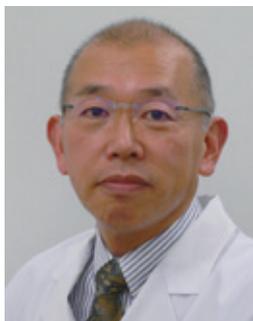
現在5名のスタッフ（医員とレジデント含む）で日々、診療・研究に取り組んでおります。子宮頸がん、子宮体がん、卵巣・卵管・腹膜がんの診断から治療（手術、化学療法、放射線治療）や、子宮頸がんの前がん病変の精密検査・治療も行っております。また、稀少がん（外陰がん、膣がん、肉腫など）の治療、および再発がんの骨盤全摘なども行っています。他科の医師や、他職種のスタッフとも連携し、安全で質の高い医療を提供できるよう日々努力しております。



後列左から：森正彦医長、近藤紳司医長、清水裕介医師  
前列左から：宇野あす香（シニアレジデント）、水野美香部長

# 『医看薬薬連携研究会』 患者さんを皆で支えています

中央病院 ～薬剤部～



薬剤部長  
水野 靖也

本年4月、薬剤部長に着任しました水野靖也です。2年間この病院を離れていましたが、その間に新規抗がん剤、オピオイド鎮痛薬の種類も増えており、がん医療の進歩には驚かされます。28名の薬剤師（内6名は短時間勤務）と8名の補助職員で薬の専門家として仕事を担っておりますのでよろしくお願いします。

がんの治療は外来通院に大きくシフトしてきており、お薬については医薬分業が定着してきています。この分業を正しく機能させるために、病院と保険薬局の薬剤師が連絡を取り合う「薬薬連携」はすでに多くの医療機関で取り組まれています。

当院ではこの連携に医師、看護師も加わった『医看薬薬連携研修会』を平成24年から始めています。

その狙いは、保険薬局は「がんセンターで行われている治療」について学ぶ場とし、医師、看護師、薬剤師は「ご自宅等での過ごし方や困りごとなど」保険薬局が得たことを知る場とすることでした。昨年度末までに16回開催してきましたが、狙いどおり院内外の医療者が情報を共有し、副作用への対処や、薬を正しくお使いいただくための指導に役立っています。

『研修会』の名前は、地区薬剤師会と協力して開催するようになって『研究会』と名称を変更していますが、この連携を充実させ、皆で患者さんの治療を支えていきます。

医看薬薬連携研修会の開催状況（抜粋）

主な研修テーマ	医師	看護師	薬局 薬剤師	病院 薬剤師	歯科 衛生士	大学 教員等	合計 [人]
第1回 15-1下剤対応フローチャート紹介	2	3	15	18			38
第4回 ティーエスワン連絡帳 外までの運用手順	4	6	24	16		4	54
第6回 口腔ケア	8	5	22	12	1	4	52
第7回 腹の副作用 保険薬局の業務紹介	8	7	15	14	1		45
第8回 ストマケア	4	4	27	16		5	56
第9回 レスキューの使い方	5	8	26	13	1	6	59
第10回 膵臓癌の治療とその特性	6	6	22	14	1	2	51
第11回 放射線治療	5	6	18	26		3	58
第14回 肺がんの治療と分子標的薬の副作用対策	2	5	28	21		3	59
第15回 薬物療法における副作用対策と在宅医療	6	10	28	24		5	73

医看薬薬連携研修会の様子



## 診療医の紹介

中央病院 ～麻酔科部～

麻酔科部では手術麻酔管理を行っており、誠実で献身的なスタッフが、持てる能力を存分に発揮できる環境を目指しています。チームワークを重視し、日頃から意思疎通をはかり、緊急事態にも協力して対応しています。また、チーム医療の一員として、他科の医師や看護師とも良好なコミュニケーションを取り、患者さんにとってより良い方針を協力して立案、手術や処置が円滑かつ安全に行われ、痛みが少なくなるよう手を尽くします。



後列左から：横川清医長、桑田知幸医長、岡崎大樹医長、仲田純也部長、原真人医長  
前列左から：水野陽子（秘書）、伊東仁美医長、神野真穂（レジデント）、栃井都紀子医長

## 「がんの家族教室」のお知らせ ～がんになった家族を支えるために～

これまで、がん患者さんの家族は、「第二の患者」として、患者さんのケア・介護におけるストレスによる心身の不調に注意が向けられてきました。しかし、最近ではさらに一歩進んで、それを予防するために、がんについて医療者と共に学んでいくことが推奨されています。そのためのひとつの方法が「家族教室」です。がん自体についての情報は書籍やホームページ等で得られますが、実際に役立つ心理社会的情報となると多くありません。

緩和ケアセンターでは昨年、『はじめよう！ がんの家族教室』（日本評論社）を家族および医療者のどちらにも役立ててもらえるように刊行致しました。本年もその第1部にそって計6回の講義を緩和ケアセンター前で行いますので多くの方々の参加をお待ちしております。詳細は愛知県がんセンター緩和ケアセンター（内線6420）までお問い合わせください。



◇本講義のテキスト：  
本院売店にて取扱中です◇

## 医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分 (祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)  
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)  
※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

### ★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分  
市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

### ★車でのアクセスのご案内

#### ◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

#### ◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963  
〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索